

# 近代 第二次世界大戦

## 2000 年度 第 6 問

A 次の史料は、戦時体制下の農村について書かれた文章である。

このころ、全国の農村からは、だんだんわかい男がすがたを消していった。馬がとられていった。(中略) <sup>(a)</sup> 男手をとられた労働力の不足、馬をとられた労働手段の欠乏の責任は、必然的にこのこされた主婦やたいいけな子供や老人の肩にずっしりとおかれてしまった。しかも、当時は、軍需食糧や飼料の急激な需要増大にもとづく生産力の拡充が、ひじょうな速度で要求された。

(丸岡秀子『日本農村婦人問題』)

問1 下線部(a)に関連して、戦時体制下の国内における男子労働力不足の対策について述べた文として誤っているものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

- ① 鉱山や工場などに、多くの朝鮮人や中国人が強制連行された。
- ② 国民の軍需産業への就労は、国民徴用令によって強制された。
- ③ 学童疎開によって、児童は各地の軍需工場に勤労働員された。
- ④ 未婚の女性による女子挺身隊が編成され、軍需工場に動員された。

問2 戦時体制下の農村について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 日本農民組合の指導のもとで、小作料の引下げを求める農民運動が活発になった。
- ② 国家による小作地の強制買上げが行われ、地主は経済力を失った。
- ③ 生産増強のために、土地調査事業が全国的に実施された。

## 2005 年度 第 6 問

A

<sup>(a)</sup> 満州事変を境に、日本の進路は大きく転換することになった。国内では軍部が政治への影響力を増す一方、対外的には国際連盟を脱退し、孤立への道を歩むことになる。

1937年7月に日中戦争が始まると、近衛文麿内閣が  を行い、産業報国会の結成など、戦争協力のための国民の組織化を推進した。日中戦争が長期化すると、日本と英米との対立が激化し、アメリカは1939年7月に日本に対し  の廃棄を通告し、翌年この条約は失効した。

問2 下線部(a)に関連して、満州事変から1945年の日本の敗戦までに起こった出来事として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 暴力主義的な政治活動を取り締まる目的で、破壊活動防止法が制定された。
- ② 「ぜいたくは敵だ」のスローガンの下、国民生活の切り詰めが求められた。

- ③ 国民徴用令によって、一般国民が軍需工場に動員された。
- ④ アメリカが、B29爆撃機による日本本土の空襲を行った。